

【高等学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立佐賀工業高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標を達成すべく、本年度の重点目標を定め、各評価項目について取り組んできたが、昨年同様「概ね達成できた」と考える。 本年度も「家庭学習の定着」の項目ではC評価であった。工業技術者となるためには、自ら学ぶ姿勢を身につけさせることが大切でありことから、次年度以降も改めて取り組みを充実させたい。 学科改編により6学科6クラス導入の初年度であった。移行期間の対応を円滑に実施して、将来の進路を見据えた具体的で興味・関心の高まる教育課程を編成し、工業教育の活性化を図る。
2 学校教育目標	歴史に培われた伝統に学びながら、21世紀を担う平和で民主的な社会の形成者として、人間愛に満ちた心身共に健全で逞しい工業技術者を育成する。
3 本年度の重点目標	<p>〇“ものづくり”から“者(ひと)づくり”そして“未来(あす)づくり”</p> <p>A 深い生徒理解に基づく指導 I 規律ある高校生活の定着 ウ ものづくり教育の推進</p> <p>工 部活動の充実 オ 開かれた学校づくりの推進</p>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 〇わかる授業の実践と学習意欲の向上に向けた学習指導の充実 〇資格取得の推進 〇各科目の重点資格と基礎資格の合格率の増加 〇ジュニアマイスターの取得者の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 〇授業アンケートにおいて丁寧でわかりやすい授業と感じている生徒95%以上を目指す。 〇資格取得において75%以上の合格率を目指す。 〇ジュニアマイスター取得者は全校生徒の数のゴールドとシルバーで5%以上、ブロンズを含め70人以上の取得を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業、公開授業を行い、職員相互の授業参観で良いところを取り入れ、わかりやすい授業を目指す。 ・担任や科と連携して資格取得者を増やす。 ・全員受験基礎資格の指導徹底と補習体制の強化を図る。
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実(いじめの未然防止) ◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> 〇生徒の状況把握に努め長期欠席や断続欠席者をゼロにする。 〇心の教育に関する講話を学期に1回行う。 〇生徒一人一人が安心して学校生活を送ることができるようにする。 〇大人にSOSを出せるように、相談環境を整え、生徒の居場所を作る。 ◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒80%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と会話を密にして、職員、家庭と連携を取り、早めの対応に努める。 ・生徒指導主事や教育相談担当から、式典の際、心の教育について講話を行う。 ・定期的にいじめアンケートを実施し、結果をもとに関係機関との連携など、早めの対応に努める。 ・常時、生徒が相談できる環境作りを行う。 ・「佐賀語り」やDVD教材を活用し、佐賀県の良さを再発見させる。 ・外部講師を招聘し、郷土愛を育む講演を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題に関しては、生徒指導・教育相談担当が密に連携を図り、スムーズな対応ができた。問題を抱えている生徒に対しては、学校職員に加え、SC、SSWからの指導を定期的に仰ぐことで、問題の解消に繋がった事例が多数あった。その反面、保護者の理解を得ることが難しい場合が多く、学校・保護者が共通理解を図ることが、今後の課題としてあげられる。 ・不登校や対人関係の支援をすすめてきたが、長期欠席や断続欠席者ゼロは達成できなかった。 ・今年度は、積極的ないじめの認知・認知を行うことで、職員が今まで以上に生徒を「見守る」環境ができたよう、職員研修の充実やSC、SSWの活用を行うことができた。職員の間では、まだいじめの認知・認知の認識に「差」があるので、この「差」を無くし、生徒が気持ちよく過ごせる学校づくりに努めていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題に対して保護者からは高い評価が得られており、高校は早期発見、早期対応の体制を整え、組織的に対応する体制ができているようだ。
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「学校生活における安全に関する資質・能力の育成」 ・登下校中の交通安全 ・スマートフォン利用におけるモラルの向上 	<ul style="list-style-type: none"> ●「毎日朝食を食べる」生徒85%以上を目指す。 〇生徒の生活事故、交通事故を0(ゼロ)にする。 〇ネットパトロール指導件数を0(ゼロ)にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「保健だより」を発行して、健康面や栄養面の情報を提供する。 ・食に関するアンケートを実施して、食事の大切さ、食習慣などに意識を持たせている。 ・年1回の警察による交通講話の実施。生徒指導部による登下校指導を行う。 ・年1回の警察によるネットエチケット講話の実施。生徒指導主事による学期に1回の講話を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のアンケートの回答で佐賀県に誇りや愛着を感じる、どちらかと言うと感じるとした生徒が76.3%であった。 ・「陸蒸気」に関する講演会を実施、大隈重信の演劇ビデオの鑑賞、「佐賀語り」の読書とレポート作成を行ない、ふるさと佐賀への思いを醸成した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が住み続けている町の、いろんなことを学ぶことは大切であり、今後も継続して頂きたいと思う。 ・郷土学習資料「佐賀語り」やDVD教材を効果的に活用されていると思う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 〇事務職員の学校運営への積極的参画と教員との連携促進 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・教職員の時間外在校等時間の年間平均を一昨年度より10%削減する。 〇教育行政職員の専門性を活かし、経営的視点を持ちながら学校運営に積極的に参画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務を見直し、業務の偏り不均衡を是正する。 ・部活動実施計画を確認し、部活動指導者を交代で指導に当たらせる。 ・教員との連携を密にし、情報共有を行い、学校の現状を把握して一つのチームとして学校運営に取り組む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の時間外在校等時間は平均33時間(一昨年度40時間)であり、10%の削減目標を超え17.5%削減することができた。 ・定時退勤推進日を設け朝礼時に確認したこともあり水曜日は帰宅時間が早くなった。超過勤務月100h超、平均80h超の職員は年間を通して0名であった。 ・業務の偏り解消については、職員への声かけを行い業務分担や負担軽減を促したが、一部の職員に対して業務の偏り解消を図ることが難しかった。 ・教員と連携しながら、授業で使用する備品の計画的な取得・修理を行った。使用できない備品については処分し学習環境の改善に努めた。 ・県費・私費会計の処理方法及び管理の改善を進め、業務改善をすることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員による評価から、まだ厳しい状況であることが感じられる。 ・高校内だけでなく、教育庁あるいは教育委員会との連携等で改善を促進できないか。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				〇進路実現	<ul style="list-style-type: none"> 〇生徒・保護者の負担に応じた進路指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 〇進路意識の高揚と職業観・勤労観の育成などキャリア教育の推進を図る。 ・就職試験の一次合格率を上げ、進路決定率の年内100%達成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進学補習等で基礎学力を向上させる。 ・面接指導、集団討議訓練を実施する。 ・企業訪問報告会を6月、3月に実施する。 ・SPI試験の対策に小テストを実施する。
〇学びのトレーニングによる基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 〇「学びの時間」の充実と学習習慣の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 〇「学びの時間」小テストの各学年における正答率80%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年や教科と連携した指導を徹底し、基礎学力の向上に努める。 ・毎朝継続して学習に取り組み、学習の習慣化を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの時間」導入3年目。全校一斉に毎朝10分間学習に取り組むことが習慣づけられた。高校入学後3年間継続して取り組んできた3年生のうち、「学びの時間」が自分のためになったと回答した生徒96%であった。 ・「学びの時間」で学習することにより、自身の理解度を把握し、小テスト前の復習に活かすことができる生徒が増加した。小テストの年間平均正答率は、1年81%、2年79%、3年84%。小テスト指導における職員の業務連携が今後の課題としてあげられる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの時間」の導入効果が小テストの高い平均正答率からも読み取れる。2年生の平均正答率がわずかに80%に届いていないが、全体としては十分に目標に到達している。今後も継続して欲しい。

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 〇学校教育目標を達成すべく、本年度の重点目標を定め、各評価項目について取り組み、「概ね達成できた」と考える。 〇工業技術者となるためには、自ら学ぶ姿勢を身につけさせることが大切であるが、生徒アンケートでは「家庭学習の定着」の項目が低評価であった。次年度は取り組みを充実させたい。 〇次年度は学科改編し6学科6クラスの完成年度となる。興味・関心の高まる教育課程を編成し、将来を見据えた工業教育の活性化を図りたい。
----------------	---